

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670101573		
法人名	特定非営利活動法人 はなまる会		
事業所名	グループホーム はなまる岩瀬		
所在地	富山市西宮 1-1		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町村受理日	平成29年12月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>○岩瀬曳山祭り・流しそうめん・敬老会・クリスマス会等の行事を常時企画して、楽しみのある生活を送れるよう職員一同取り組んでいる。</p> <p>○毎月のカレンダーや壁面装飾を利用者と一緒に楽しみながら制作している。</p> <p>○食事は毎食作りたての物を提供し職員も同じ物を一緒に食べている。また、食の好みに応じて代替品を提供するなどして、食事が楽しくなるように配慮している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は、利用者一人ひとりが穏やかに過ごせるよう、それぞれの思いの一つひとつを受け止めるよう努めている。また、事業所に来てくれた曳山祭りの大きな山に感嘆し、また、チアダンスクラブの子供たちが演技を披露しに来てくれた際には、元気な姿からパワーをもらうなど、地域の人達の協力を得ながら、張り合いを持って暮らせるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム はなまる岩瀬

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	活動理念を事業所入口事務所前に掲示して、職員の目にふれるようにしている。	理念は職員が目にしやすい場所に掲示し、勤務の前後に理念を確認し、職員間で共有している。また、職員会議では、日々のケアが理念に沿っているかを話し合い、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所内のホールを地域住民の方に開放している。地域の方のボランティアの受け入れも積極的に行っている。	曳山祭りには、駐車場に山が来てくれ、近隣の人達と一緒に見物している。また、チアダンスクラブの子どもたちの訪問を受け、笑顔で踊る姿に元気をもらうなど、地域の人達と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、認知症の家族についての相談を受けた際には、話を伺い手続きの方法などを説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族に参加いただき、会議で戴いた意見を業務改善に繋げられるよう努めている。今年度は8月の夏祭りの際に開催し、意見を戴いている。	定期的には開催していないが、事業所の夏祭りの際に、地域包括支援センター職員や家族に集ってもらい、介護保険の現状説明や家族からの要望を聞き、運営に活かしている。	今後は、事業所の年間予定の中に開催日を織り込み、2か月ごとに定期的に運営推進会議を行って、そこで出た意見などを運営に活かすことが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターが、実施する事例検討会等に積極的に参加している。	介護保険制度の改正など、わかりにくい点があれば、市の担当者に聞いている。また、地域連絡会議に参加するなど、市との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠は夜間以外しておらず、自動ドアで自由に入出りできるようにしている。身体拘束は必要に応じて、家族に説明し同意書を交わしてから拘束を行う事を想定している。</p>	<p>身体拘束による弊害を職員会議で周知し、職員の理解につなげている。また、ヒヤリハットをもとに支援方法を話し合い、安全面に配慮しながら、抑圧感のない暮らしの支援に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について正しく認識し、職員会議等でも話し合っている。虐待と疑われるものについては、関係各所と連携して防止している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度の利用実績があり、関係者と連携して支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約時ともに説明を行い、同意を得てから契約書・解約届を交わしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に担当者会議を開催し、本人・家族の要望を聞いている。意見・要望については、全ての職員に周知し業務に反映している。</p>	<p>日頃から家族の話を聞くように努め、要望などを言いやすい雰囲気をつくっている。利用者には、外出先の希望を聞くなど、利用者や家族の意見などを運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で得られた意見や提案は、可能な限り業務に取り入れ反映している。	毎月の職員会議では、行事内容などについて意見交換し、そこから新たな課題の発見につなげるなど、職員の意見を運営に取り入れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則及び賃金規程に基づき、昇給・各種手当を設けている。また、職員個々の自主性を重んじ職員環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の奨励及び、経験に応じて各種研修や講習会や実践者研修への受講推薦を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域で開催されている各種検討会への参加や富山県認知症連絡協議会へ参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人の具体的な意見や要望に耳を傾け、実現できるように努めている。また、新規の利用者には、時間をかけたアセスメントを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時には、家族からの要望を細かく聞き取ると共に、コミュニケーションを図り、より良い関係が築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを見極め当事業所では対応できないものについては、他のサービスの情報提供や助言をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の身に置き換えた対応を考え相手の気持ちになって接するように努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの際には、家族の意見を聞き、共に考え支援している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者・職員共に地元出身者が多く、地元の話がよく話題になる。昔からの知り合いも多く、会話しやすい雰囲気作りに努めている。	ケーブルテレビの岩瀬曳山祭りの録画を見て、「うちの町内の山だ」などと利用者同士で会話を弾ませたり、入居前からの理容院でいつも通りに散髪してもらうなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、食事の際の席などに配慮している。必要に応じて職員が間に入り、より良い関係性が築けるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族がサービス終了後も訪ねてくれることがあり、現在の様子を尋ねると共に相談にのっている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話から以前の暮らし方や本人の希望や意向を把握し、出来る限り対応している。	日頃の何気ない会話の中から本人の思いを聞いているが、遠慮がちな表情などに留意して、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの生活歴などをアセスメントし、介護情報にまとめ職員が情報を共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりにあった過ごし方ができるよう、日々の体調を確認し要望の把握に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にて担当職員が中心となり話し合いを行っている。また、担当者会議には本人・家族にも出席して頂き、意見を出し合っている。それらを反映し介護計画を作成している。	安心して不安なく暮らせるよう、一人ひとりのニーズをとらえ、家族の要望や職員の提案などを取り入れている。また、モニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画になるよう見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子に加え、体調の変化や職員が気付いた事を記入しており、情報共有に努めている。内容に基づいてサービスを評価し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族とは連絡を密に取りながら、その時々情報を収集している。必要と思われることに対しては、既存のサービス以外にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動しているボランティアやサークルの方々を積極的に受け入れている。交流を通し、楽しみの多い暮らしができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の往診を受け健康管理をしている。体調不良などの時は連絡を取り、必要に応じて往診や受診をしたり、総合病院を紹介してもらっている。	入居前からのかかりつけ医の継続、協力医による訪問診療など、利用者や家族の希望に沿った受診支援を行っている。また、訪問診療に家族が立ち会うなど、医療面の連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気付いた事があれば看護師に報告し、情報共有をしている。利用者の体調に変化があれば看護師から主治医に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては介護情報を提出している。また、総合病院に設置してある地域医療連携室とも連絡を取り合い、情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当事業所で、できる事・できない事を説明して同意を得ている。入居後も状況に応じて連絡を取りその都度確認して、できる限り希望を尊重した支援に努めている。	事業所として医療的な措置には対応できないが、医師の所見をもとに、家族や利用者の希望に沿って、可能な限り支援することとしている。また、医師や家族と繰り返し話し合っ、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半年に1回の避難訓練や救命救急講習を受け、AEDの使用方法も学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は行っているがそれ以外の災害については訓練は行えていない。	火災の避難訓練は年2回実施し、利用者が避難できる方法を身につけるよう努めているが、火災以外の水害や津波などの対策は、今後の課題としている。	今後は、水害や地震（津波）などの具体的な対策を立てることが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格とプライバシー確保の為、入浴時や排泄時には、カーテンなどを使い対応している。	利用者一人ひとりとの関わりを大切にし、ほのぼのとした家庭的な環境の中で、優しく接するよう努め、利用者の人格を尊重するようなケアにつなげている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑談の中から本人の思いや希望を聞き、実現できるように支援している。意思表示のできない人は、表情などを確認して思いに沿えるように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが、自分のペースに合わせて毎日を過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月2回訪問の床屋を利用し、希望者は好みの髪型やカラーにしている。入浴後は、化粧水で肌の手入れをし、服装も本人の好みの服を着用している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに合わせて、食材や調理方法を変えている。昼食は利用者と職員が同じテーブルで会話しながら一緒に食事をしている。	職員も一緒にテーブルに着いて、会話をしながら、楽しく食事ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は必ず確認している。必要に応じて、摂取を促したり食べたり飲んだりしやすいように形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状況に応じた方法（義歯ブラシ・スポンジブラシの使用）で口腔ケアを行っている。義歯は週に2回消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している利用者でも日中トイレでの排泄が可能な場合はトイレ誘導を行っている。夜間の失禁防止のため、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。	一人ひとりの状態に合わせて、自分で行ける利用者にはさりげなく声かけしたり、安全に配慮して職員二人で介助するなど、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取や運動を促している。また、ヨーグルトの摂取や起床時に冷たい水を飲水するなど個々に合わせて支援している。下剤も個々に合わせて毎日量を調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中という制約はあるが、その中で順番の工夫などして、できるだけ希望にあわせるようにしている。入浴日以外でも希望があれば入浴してもらっている。	「一番風呂に入りたい」「今日入りたい」などの希望に応じている。入浴中は、気兼ねなく家族のことを楽し気に話すなど、職員とのコミュニケーションの機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や希望に合わせてベッド静養の時間を持ち、就寝時間も個々に合わせて決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの服薬情報は個々のファイルに保管している。職員から昼夜の状況を聞き取り、主治医に上申している。内服に変更があった場合は、職員に報告し観察してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみやメモ紙作り等の軽作業を手伝ってもらっている。毎日のレク活動も行っており、状態や体調に応じて参加してもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候に応じて、散歩やドライブに出かけている。岩瀬の曳山祭りの日は、曳きあいを見に出かけたり、地域の方との交流を楽しんだりしている。	天候や体調を見て、岩瀬の町を散歩している。また、松川の桜並木や滑川の菖蒲など、季節のお花を見にドライブに出かけ、四季を身近に感じてもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族からお金を預かり施設で管理している。本人が飲み物や必要な物を購入したい時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話機を貸し出したり、取り次いだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はいつも清潔を心掛け清掃している。壁面には、その月のカレンダーや季節を感じとれようにしている。また、七夕飾りやクリスマスツリーなどを季節に応じて飾りつけしている。	共用空間は清潔に保ち、また、温度や湿度をこまめに調節し、利用者が過ごしやすい環境をつくっている。また、年末にはホールで臼と杵を使って餅をつくなど、季節の行事を行って、暮らしに彩（いろどり）を添える共用空間としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はショートステイサービスの利用者も使用しており、気の合う人同士で会話を楽しんでもらっている。独りになりたい時は、居室に誘導している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が、自宅で使い慣れた馴染みの物を持ち込むことができる。自宅での暮らしに近い生活ができるように工夫している。	孫が描いてくれた絵や家族が届けてくれたお花などを飾り、居心地よく暮らせる居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内の壁には、手すりが設置されており、一人で安全に移動できるようになっている。廊下やフロアは車椅子同士がすれ違うことができるよう広さを確保している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームはなまる岩瀬
 作成日 平成 29年 12月 11日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今後は、水害や地震（津波）などの具体的な対策を立てることが期待される。	避難場所・避難経路を確認し、周知徹底する。 備蓄品を定期的にチェックする。 地域の防災情報の共有を図り、防災対策の協力体制を構築する。	地域の防災情報を収集する。避難場所や経路の確認及び周知。 地域住民の参加を含めた年2回の避難訓練の実施。年1回の備蓄品のチェック。	1年
2	4	今後は、事業所の年間行事の中に開催日を織り込み、2ヶ月ごとに定期的に運営推進会議を行って、そこで出た意見などを運営に活かすことが期待される。	年間行事に運営推進会議を織り込み、2ヶ月に1回会議を開催する。 会議で出た意見を運営に反映できる。	年間行事予定計画を作成し、運営推進会議を合わせて実施できる行事を設定する。 包括支援センターや民生委員などに予定表を配布し協力を求める。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。